



カケハシ・プロジェクト（米国） オンライン訪日（お弁当・書道）フォローアップの記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

本プログラムは、カケハシ・プロジェクトの参加経験者（同窓生）が、「お弁当・書道」について学ぶことで、対日理解の促進、日本への関心の拡大及びネットワーク活動を促進することを目的として、オンラインで実施されました。あわせて、同窓生同士の交流、意見交換を通して、同窓生ネットワークの強化を図りました。

【参加者】米国、カナダ、日本（2025年度までのカケハシ・プロジェクト参加の同窓生）合計 16 名

（内訳）米国 11 名（大学生・大学院生 2 名、社会人 9 名）

カナダ 4 名（大学生・大学院生 3 名、社会人 1 名）

日本 1 名（大学生）

【日程】

■ オンライン訪日プログラム：2026 年 1 月 15 日（木曜日）

1. 開会

2. 挨拶

外務省 北米局北米第一課 原田 清太郎 外交実務研修員

3. 【講義・文化体験】「書道」

講師：NPO 日本文化体験交流塾 副理事長 山口 和加子 氏

4. 【講義・文化体験】「お弁当作り」

講師：NPO 日本文化体験交流塾（IJCEE） 専務理事／True Japan Tour 株式会社 常務取締役・日本文化部長 菊地 くに子 氏

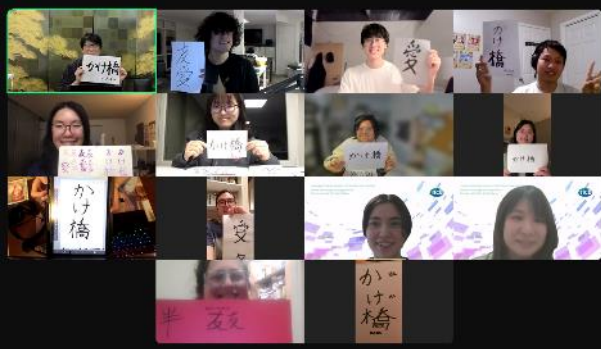
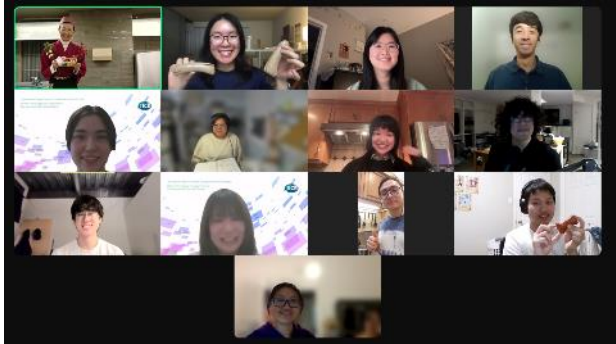
5. 質疑応答

6. 記念撮影

7. 参加者への案内、閉会

2. 記録写真

【講義・文化体験】「書道」	【講義・文化体験】「書道」

	
【講義・文化体験】「書道」記念撮影	【講義・文化体験】「お弁当作り」
	
【講義・文化体験】「お弁当作り」	【講義・文化体験】「お弁当作り」記念撮影

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

- ・ 書道の練習はどんな方法がおすすめですか？
- ・ キッチンペーパーは他の物で代用できますか？
- ・ リンゴが茶色く変色しないようにするためにはどうしたらいいですか？
- ・ おにぎりの具は何が良いですか？

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 社会人

山口先生、日本の書道の書き方を教えてください、本当にありがとうございました。「愛」「絆」「友」、そして「かけ橋」という文字を形作っている部分や意味について学べて、とても楽しかったです。「かけ橋」が日本語でどのように書かれるのかを知ったのは、今回が初めてでした。

菊地先生、日本のお弁当のさまざまな品の作り方を教えてください、本当にありがとうございました。鶏の唐揚げ、卵焼き、タコさんやカニさんのソーセージ、きゅうりのサラダ、うさぎのりんご、そしておにぎりなど、すべてのレシピを試してみるのが楽しみで仕方ありません。

◆ 米国 社会人

これは、私にとって初めての「カケハシ」のオンラインイベントでした。

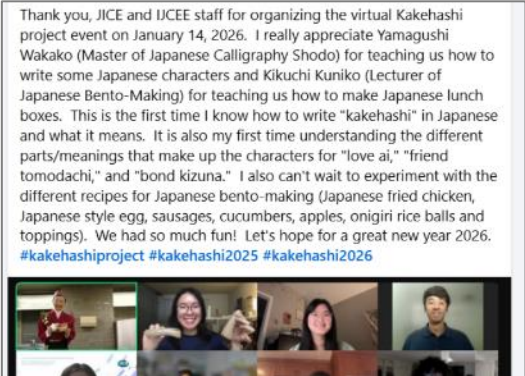
どのトピックもとても興味深く、初心者にもわかりやすい内容でした。

書道家の先生もお弁当の先生も素晴らしく、どんな質問にも丁寧に答えてくださいました。

◆ 米国 社会人

プレゼンテーションをととても楽しむことができましたし、二つの異なるスキルを学べたことも嬉しかったです。一緒にやってみることで、初めて挑戦する時の緊張がほぐれました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2026 年 1 月 15 日（Facebook 等） 米国 社会人 山口和加子先生（書道師範）には日本語の文字の書き方を教えていただき、菊地くに子先生（お弁当づくり講師）には日本のお弁当の作り方を教えていただき、本当に感謝しています。 「かけ橋」という言葉を日本語でどのように書き、どんな意味を持つのかを知ったのは今回が初めてです。また、「愛」「友だち」「絆」という文字を形作るさまざまな部分・意味について理解できたのも初めてでした。 さらに、日本のお弁当づくりのいろいろなレシピ（唐揚げ、卵焼き、ソーセージ、きゅうり、りんご、おにぎりとその具材）を試すのがとても楽しみです。 本当に楽しい時間を過ごせました！ 素晴らしい 2026 年になりますように。	2026 年 1 月 15 日（Instagram） カナダ 社会人 今回は、プロジェクトの一環で行われた「お弁当づくり」と「書道」のオンライン体験イベントについてシェアしたいと思います。 講義は山口先生が担当され、書道の歴史、伝統的な漢字の日本語における役割、そして日本独自のひらがなやカタカナについて教えてくださいました。（中略） 山口先生が強調されていたテーマの一つに、「書道が時代の流れとともに進化し、社会のペースに合わせて変化してきたこと」があります。 昔は本物の墨を使っていましたが、今では液体墨が便利な代用品となっていることも紹介されました。実際、先生もデモンストレーションで液体墨を使用していました！（中略） 山口先生も、書道は「進化と適応」というテーマに沿うべきだとおっしゃっていました。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）